

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2019年 7月

「彼を知るために」「イエス・キリストの二重の性質(Ⅱ)」「大いなる叫び—大いなる理解」「きゅうりのかんたん漬物」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

イエス・キリストの二重の性質 (I) II 4

聖書の教え

朝のマナ

彼を知るために 9

That I May Know Him

現代の真理

「大いなる叫び - 大いなる理解に比例して」 41

神の憐れみの最後の招き

力を得るための食事

「きゅうりのかんたん漬物」 48

レシピ

お話コーナー

「アンナス、カヤパ、そしてサンヒドリンの前で (III)」 50

イエスの物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465 FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp

メール support@4angels.jp

発行日 2019年6月2日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sozai on Front page, Sermon View on page

38

Printed in Japan

キリストの教育法 (Ⅲ)

—ペテロに—

(「教育」86-100より)

弟子たちの経歴の中で、ペテロの経歴ほど、キリストの教育法をよく例示しているものはない。…救い主は正しい愛をもって、忍耐強くこのせつかな弟子を取り扱い、彼の自信をとり除き、けんそんと従順と信頼を教えようと努力された。

しかし、彼が学んだのはこうした教訓の一部分にすぎなかった。自信の念は根絶できなかった。心に深く重荷を感じながら、イエスは、幾度となく弟子たちの目をひらいて、ご自分の試練と苦難を見せようとつとめられた。しかし、彼らの目は、開かれなかった。それを知ることは気が進まなかった。そこで彼らは見ようとしなかった。…しかし、ペテロが危うく波にさらわれそうになったときにキリストの救いのみ手がさしのべられたように、キリストの愛は、深い海にのまれかけている魂を救うために注がれる。…

主を拒否したペテロが、救い主の愛とあわれみと悲しみに満ちたまなざしに、…後悔の涙を注いだとき、—「わたしは…あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」との救い主のみ言葉は、ペテロの魂をささえた。…苦悩と自己嫌悪に陥り、ユダと同じ道に踏みこみそうになったペテロの足をひきとめることができたのは何であつたらうか。…

キリストの愛は、人を失望させることも見捨てることもない…

キリストが、最後にガリラヤの海で弟子たちに現われたとき、ペテロは、「わたしを愛するか」との質問を三度うけて試みられたのち、元通りに十二弟子のひとりとなり、なすべき働きが命じられた。それは、主の羊を牧することであつた。…イエスは、「わたしに従ってきなさい」とペテロに命じられた。

いま、ペテロは、そのみ言葉の真意を知ることができた。キリストが、弟子たちのまん中に、幼子を置いて、みなこの幼子のようにならなければならないと仰せになったそのときの教訓を、彼はいまこそいつそうよく理解することができた。自分自身の弱さと、キリストの力をいつそう深く悟ったペテロは、キリストによりすがり、キリストに従う用意ができた。キリストの力によって、彼は主に従うことができたのであつた。…

こうしてかつては十字架の認識が足りなかったペテロが、…主と同じ死に方をすることを、身に余る大いなる光栄と思うようになった。

ペテロの生まれ変わった一生は、神の愛の奇跡であつた。それは、大教師イエスの足跡に従おうとするすべての人にとって、一生の教訓である。

第11課 イエス・キリストの二重の性質(Ⅱ)

イエスは神であられる

旧約聖書と新約聖書は、イエスが神であられることについて疑いの余地を残していません。イザヤ 9:6 には、神聖な目的のために起された、特別な子に光景が述べられています。イザヤ 43:3, 11, 14, 15 には、聖なるお方の来臨が預言されていますが、悲しいことに、使徒行伝 3:14, 15 は、このお方が拒絶され、否定され、殺されたと記録しています。「主は仰せられる。見よ、わたしがダビデのために一つの正しい枝を起こす日がくる。彼は王となって世を治め、栄えて、公平と正義を世に行う。その日ユダは救いを得、イスラエルは安らかにおる。その名は『主われらの正義』ととなえられる。」(エレミヤ 23:5, 6)。この聖句は、王であり裁き主であるお方がどの家系から来られるかを預言しています。このお方の出生地、および永遠の先在性についても預言されていました。「しかし、ベツレヘム・エフラタよ、あなはユダの氏族のうちで小さい者だが、イスラエルを治める者があなたのうちからわたしのために出る。その出るのは、昔から、いにしえの日である。」(ミカ 5:2)。

イエス・キリストは神の子(息子)と呼ばれています。しかしながら、人間の概念で「息子」と言えば、男の子の誕生です。しかし、聖書がはっきりと述べているのは、キリストの先在性は、被造物としてではないということです。ヨハネによる福音書 1:1-3 は、「言は神であつた」そして「この言は創造主であつた」ことを述べています。「すべてのものはこれによってできた」。それから、14, 15 節は、この「言」がどなたであるかを明らかにしています、一子—「父のひとり子」です。コロサイ 1:15-19 は、「神の御子」が何を意味するかを説明しています。イエス、すなわち見えない神のみかたちであるお方は、「長子」、つまりあらゆる被造物の「相続人」でした。なぜなら、彼はそれら全てを創造されたからです(聖句 16)。ひとり子ということは、単独の相続権を示しており、このお方の優位性、第一責任者、最も重要なお方であり、創造された神なのではないことを示しています。イエスは、ご自身について「わたしはいる」(ヨハネ 8:58)、すなわち神が自らについて

モーセにお与えになった肩書きを宣言されました(出エジプト記 3:14)。その結果、ユダヤ人たちは、「石をとってイエスに投げつけようとした」(ヨハネ 8:59)。なぜなら、神への冒とくは、死によって罰せられたからです。彼らは、イエスの資質、つまりイエスが神と共に存在しておられることを理解していなかった。

「わたしと父は一つである」。イエスは、ご自分と神は同じ特質を有する一つの本質の真のすがたであられることを主張されました。世の救い主は、神と等しいお方であられました。このお方の権限は神の権限でした。神から離れてご自分が存在することはありえないことを宣言されました。

いったんイエス・キリストが自分たちの創造主であられるという事実を認めるならば、このお方の神性を認め、受け入れざるを得ません。人間は神のかたちになられ、またイエスは「神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、かえって、おのれをむなうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、おのれを低くして、死にいたるまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた」(ピリピ 2:6-8)。

人としてのイエス

なぜ、神の子が人の子になられたのでしょうか。これまでの研究によって明らかにされたように、人間が罪を犯したことにより、罰金が支払われなければならないことになりました。神の御子をご自身を捧げ、完全な身代わり、完全なつながり—神が人となられ—わたしたちのために死ぬだけでなく、わたしたちのために生きるための完全な計画を立ててくださいました。これが罪からの救いの計画です。しかし、なぜ、イエスはわたしたちの人性を取られたのでしょうか。なぜ、人間の罪深い性質を?ヘブル 2:14-18 は、イエスが天使の性質ではなく、わたしたちの性質をとられたことを告げています。それは人間としての誘惑を知り、それを克服することによって、彼は、死の力を持つ悪魔を完全に滅ぼすことができるからでした。ヨハネ 1:14 で「そして言は肉体となり」と述べています。創造主は、墮落した人間を罪と違反された律法の有罪宣告から贖うために人となられた。

「このように、子たちは血と肉と共に預かっているので、イエスもまた同様に、それらをそなえておられる。それは、死の力を持つ者、すなわち悪魔をご自分の死によって滅ぼし…確かに、彼は天使たちを助けることはしないで、アブラハムの子孫を助けられた。そこでイエスは、神のみまえにあわれみ深い忠実な大祭司

となって、民の罪をあがなうために、あらゆる点において兄弟たちと同じようにならなければならなかった。主ご自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのである。」（ヘブル 2:14、16-18）。

キリストが人性を取られた受肉を考えると、わたしたちは人の思いが理解できない測りがたい神秘の前に驚愕して立ち尽くします。それについて考えれば考えるほど、ますます驚くべきことに見えてきます。キリストの神性とベツレヘムのかいばおけの中の無力の赤ん坊の間は、なんとか離れて対照的なことでしょう！わたしたちは大能の神と無力な赤ん坊の間にある距離をどのようにして測ることができるでしょうか？それでいながら、諸世界の創造主、そのうちに神の満ち満ちた徳がかたちをとって宿っておられるお方が、かいばおけの無力な赤ん坊の内に現わされたのです。どの天使よりもはるかに高く、威厳と栄光において父なる神と等しいお方が、それでいながら、人性という衣をまわられて、二つの性質が神秘的に結合し、人と神が一つになられたのです。わたしたちが墮落した人類の希望を見いだすのは、この結合の内においてです。わたしたちは人性のうちにあるキリストを見ると、神を見ているのであって、このお方のうちに、神の栄光の輝き、神の本質の真の姿を認めます。

「このようなわけで、律法そのものは聖なるものであり、戒めも聖であって、正しく、かつ善なるものである。」（ローマ 7:12）。神が完全であられるように神の律法は完全です。サタンは、その要求を否定しようとしてしました。ですから「律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである」（ローマ 8:3,4）。これにより全宇宙は、神の律法が正しく、善であって、守ることができることを知るようになります。キリストは完全な模範となられ、わたしたちもまた、どのように神と調和しながら生きることができることを示されました。

ちょうどわたしたちがイエスが神であられることを信じなければならないのと全く同じように、このお方がまた人であられることを信じる必要があります。イエスは人間であられ、わたしたちの弱さを経験してこられました。「しかし、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練にあわれたのである」（ヘブル 4:15）。イエスは皆さんやわたしの同じように、どのように従い、どのよう

に誘惑を克服するかを学ばなければなりませんでした。このお方は導きと助けを求めて祈らなければなりませんでした。

しかし、わたしたちは「イエスは神であられた」、「このお方はいつも従われるのだ」、「神は罪を犯されない」と言います。確かにイエスはその神性においては決して罪を犯されることはありませんが、このお方は、罪に打ち勝つために神性の力を用いられたことは一度もありませんでした。イエスは、ご自分の神性を置きへ置き、それによって自らを罪やあらゆる誘惑にあうものとなられたのでした。しかし、キリストの人性は、ご自分の御父の神性をつかんでいました。「…『あなたこそは、わたしの子、きょう、わたしはあなたを生んだ』…キリストは、その肉の生活の時には、激しい叫びと涙とをもって、ご自分を死から救う力のあるかたに、祈りと願いとをささげ、そして、その深い信仰のゆえに聞き入れられたのである。彼は御子であられたにもかかわらず、さまざまな苦しみによって従順を学び、そして、全き者とされたので、彼に従順であるすべての人に対して永遠の救いの源となり」（ヘブル 5:5,7-9）。

キリストの信仰は、父なる神に届きました。キリストは、わたしたちが生きなければならぬ人生を生きられました。彼は、わたしたちの完全な模範となりました。これが、キリストの神聖な使命でした。すなわち、このお方が人としてサタンの領域において生き、しかし、神のみ力によりすぎることに、勝利者として出てくることでした。

キリストはご自分の人の腕をもって人類をいだき、同時に神性な腕によって無限のお方の御座をつかんで、有限な人間と、無限の神を結びつけておられました。キリストは、罪によって生じた深淵に橋をかけ、地と天とをつながれました。キリストは、ご自分の人の性質において、ご自分の神聖な性質の純潔さを維持されました。ある解説者が表現したように、「キリストは、ご自分の神性を人性で覆われた」。イエスは、わたしたちにご自分の生涯によって、わたしたちもまた肉において、神の御子を通して神が差し出しておられる力と恵みによって悪魔に打ち勝つことができることを示しておられます。こうして、人となることによって、イエスはわたしたちがどのように神の息子むすめとして罪に超越して生きることができるかを示されました。わたしたちの性質を取られることにより、救い主は、ご自身を決して切れることのない絆によって人類に結びつけて下さいました。永遠にわ

たって、このお方はわたしたちとつながっておられるのです。なぜなら、「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛してくださった」(ヨハネ 3:16)。このお方はわたしたちの罪を担い、わたしたちの犠牲として死ぬためにご自身を捧げられたではありませんでした。このお方は彼ご自身を墮落した人類に与えてくださったのです。不朽である平安の勧告をわたしたちに保証するために、神はそのひとり子を人類の家族の一員とならせるために与え、永遠に人性を保持するようになさいました。これが、神がご自分のみ言葉のうちに成就してくださる誓いです。「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり」(イザヤ 9:6)。神は、そのひとり子のうちに人間の性質を受入れ、その人間の性質を最高の天にまで携えて行かれました。

わたしたちの仲保者であられる主なるイエス・キリストに、祈りの内にこのお方に心を開いて、頻繁に向き直りましょう。このお方は御父の前でわたしたちの裁判のためによく嘆願することがおできになる忠実にして真実な弁護人です。あなたはこのお方の招きを受け入れるでしょうか？

彼を知るために

That I May Know Him



7月

7月1日

最高の学問

「『やみの中から光が照りいでよ』と仰せになった神は、キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために、わたしたちの心を照して下さったのである。」(コリント第二 4:6)

神の栄光の知識という、この知識は人間の得ることのできる最高の学問である。「しかしわたしたちは、この宝を土の器の中に持っている。その測り知れない力は神のものであって、わたしたちから出たものでないことが、あらわれるためである」(コリント第二 4:7)。

人間の誤った考えは非常に多く、またそれはもつともらしい。目には見えない者たちが偽りを真理としてあらわすように働いている。誤謬は惑わしの衣をまとい、人々はこれを、より高い教育に不可欠なものとして受け入れるよう導かれる。そしてこれらの誤った考えは、わたしたちの学生の多くが完全に守られ、神の御霊によって彼らの心と精神にみ言葉の偉大で聖なる真理を受け入れるように導かれるまでは、より高い教育の基礎をなす原則として受け入れるよう、彼らを惑わすであろう。すべての人々を啓発するものである神の清い教えの価値にまさる教えは他にない。……偉大なる教師イエスによって与えられる教育以上に高い教育はあり得ないのである。(手紙 98, 1909 年)

魂の関心や純潔、また神と神聖で永遠なることについて純粋で聖なる考えにとって、神から出たものではないものを絶えず心に留めたり、たたえたりすることほど有害なものは他にない。それは心を毒し、理解力を下げる。清い真理は、それを受ける者の品性を高め、純粋にし、清める感化によって、聖なる源泉である方へ行きつくことができる。(同上 12, 1890 年)

神の民を混乱させるためにありとあらゆるものが押し寄せてくるこの時代に、あなたがたの霊的な視力が強くなるようにしよう。あなたがたの信仰が神のみ言葉のうちに堅くされるようにしよう。あなたがた自身にとって、キリストのみ言葉や教えはエホバのみ言葉と教えであり、人の得ることのできる最高の教えであることを知りなさい。だれかがあなたがたの心を混乱させようとする時に「だれも二人の主人に兼ね仕えることはできない」というキリストのみ言葉を彼らに繰り返しなさい(マタイ 6:24)。神のみ言葉をはっきりと明確に前に出すようにしよう。(同上 98, 1909 年)

いつの時代も最も偉大な教育者

「群衆はその教にひどく驚いた。それは律法学者たちのようにではなく、権威ある者のように、教えられたからである。」(マタイ 7:28, 29)

学問のある世の人々が、神のみ言葉の実際的な真理に到達するのは簡単なことではない。その理由は、彼らが人間の知恵に頼り、彼らの知的優秀さに誇りを抱き、キリストの学校の謙遜な生徒になろうとしないからである。

わたしたちの救い主は学ぶことを無視したり、教育を軽蔑したりなさらなかった。しかし、福音の働きのために無教育な漁師をお選びになった。彼らが世の誤った習慣や言い伝えによる教育を受けていなかったからである。彼らは生まれつきの良い能力に恵まれ、謙遜で、素直な精神を持っており、主がその大いなる働きのために教育をすることのできる人々であった。人生の通常の歩みにおいて、めぐってくる日々の骨折り仕事に忍耐強く歩んできた人が多くいる。彼らはもし活動するように召されるなら世の高い地位の人々と同様な力を内に持っていることにまったく気づいていない。これらの潜在能力を呼び起こし、育むためには、巧みな接触が必要である。イエスがご自分に結びつけ、3年間自らの特別な指導をお与えになったのはこのような人々であった。そこにはラビの学校や哲学の学校での勉学の過程はなかったが、価値において比べることはできなかった。神のみ子はこの世界が知っている最も偉大な教育者であった。

学識のある律法学者や祭司また学者たちは、キリストのお教えになったことを嘲笑した。彼らは主に教えようと望み、しばしば試みた。しかし、主の知恵によって彼らの愚かさが非難されたりして、打ち負かされるだけであった。……彼らは主が預言者たちの学校で学ばれなかったことを知っていた。そして、ナザレ人として身分の低い外見の下に隠されている主の聖なる卓越したご品性を見分けることができなかった。しかし、主と日常生活を共にした無学な仲間たちによって記録されたこの謙遜な教師の言葉と行為は、当時から今日まで人々の心に生ける力となって働きかけている。ただ単に無学で身分の低い人だけではなく、また教育を受けた人々、知識人、才能のある人々もいにしへの驚きを喜んだ聴衆と共に「この人の語るように語った者は、これまでにありませんでした」とうやうやしく言うのである(ヨハネ 7:46)。(レビュー・アンド・ヘルド 1883年9月25日)

7月3日

光に向かって

「だから、あなたの内なる光が暗くならないように注意なさい。もし、あなたのからだ全体が明るくて、暗い部分が少しもなければ、ちょうど、あかりが輝いてあなたを照らす時のように、全身が明るくなるであろう。」(ルカ 11:35, 36)

イエスから目を背けた瞬間、暗黒が見えるようになり、感じられるようになる。イエスのみが光であり、命であり、平安であり、永遠の保証であるからである。「あなたの目が澄んでおれば、全身も明るいだろう」(マタイ 6:22)。……澄んだ目を持つとはどういうことだろうか。それはイエスを見つめる性質を身につけることである。なぜなら見つめることによってわたしたちが栄光から栄光に、品性から品性に変えられるからである。

わたしたちがキリストから目を離さない時、義の太陽の輝かしい光線は、わたしたちを照らし、精神と心の各部屋にあふれ、魂の宮を光で満たすのである。世の光がわたしたちを照らす時「あかりが輝いて……あなたを照らす時のように」わたしたちは周りの人々にまき散らすのである。神にとどまっている魂は、当惑すること、いらいらすること、不安を与える全てのことをキリストにゆだねる。神性が主のうちに満ちているので、キリストの光は、すべての良きことと平安をもって魂を照らすのである。……

キリストを仰ぎ見る人々は、自分の意志通りになるようにとか邪魔をされずに自分の昔のやり方や習慣のまま、任せてもらえるようには決して主張しない。彼らはイエスを仰ぎ見る時に、主のみ姿が彼らの心と魂に刻みこまれ、彼らのすべての行為の中に、世に対して主の模範を反映する。そして、日々手も足も舌も、霊性の命じるところに従い、信仰は彼らの道を真昼となるまでいよいよ輝きを増す道にするのである。わたしたちがキリストに似た者に到達するのを妨げるすべてのものは、わたしたちが永遠の損失を受けるようにと働き続ける。であるから、だれも自分自身のやり方を続けてはならない。だれもこれは「わたしのやり方だ」ということによって、品性の欠陥の言い訳としないようにしなさい。イエス・キリストと協力しなさい。そうすればあなたは自分の考えによる方法が、欠点と失敗に満ちたものであり、もしそれが直されないならば、あなたの品性建設のための腐った木材となることを知るであろう。……このような品性の欠陥があなたの建物のうちに決して見出されないようにしなさい。岩なるキリスト・イエスの上に建てなさい。(ユース・インストラクター 1893 年 9 月 14 日)

贖いの奥義の公開

「そこでイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて」(ルカ 24:45)

主は一人一人に、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの知識について、より深く、またより豊かな経験を持つように望んでおられる。彼はわたしたちが地上の事柄ではなく、生ける源であるキリストに至る天の知識に成長するように望んでおられる。この知識は何と高く、なんと偉大なものとされるべきだろうか？イエス・キリストにあつて完全な男女となちなさい。わたしたちは神が与えて下さる以上のたくさんの光を集めることもできないし、必要以上の成長もできないのである。……

わたしたちは偽りが急流のようにやってきていることを知っている。これが、わたしたちが神の与えて下さるすべての光を必要とする理由である。そしてそれが最後の危機の中にあつてわたしたちを立たせることができるものである。……

なんとキリストは贖いの奥義をわたしたちの前に公開することを切望しておられることだろうか？主は地上で弟子たちの間に住んでおられた時、このことをしたいと熱望された。しかし、彼らは主のみ言葉を理解するための霊的な知識において、まだ十分に進歩していなかった。主は彼らに「わたしには、あなたがたに言うべきことがまだ多くあるが、あなたがたは今はそれに堪えられない」(ヨハネ 16:12)と言わざるを得なかった。もし彼らが霊的知識に進歩し、キリストの勧告を自分のものとしていたならば、彼らが経験しなければならなかった主の苦難と十字架刑の間中、彼らも非常に苦しみに耐えることができたならば、どんなにかよかったことであろうか。わたしたちはイエスにわたしたちの理解力を啓発していただかなくてよいだろうか？……

わたしたちは永遠の御国の境に立っているのである。そして全天が調和する証を持たなければならない。(ビュー・アノド・ヘラルド 1890年3月4日)

主は再臨なさる。そしてわたしたちは備えなければならない。毎瞬間ごとにわたしは主の恵みを求める—わたしはキリストの義の衣を求める。わたしたちはかつてなかったほどに神の前に自分の魂をへりくだらせなければならない。十字架の下に身をかかめなければならない。そうすれば主は主のために語るとき、また自分たちの神を誉めたたえる時でさえも、わたしたちの口に言葉を与えて下さる。主はわたしたちに天使の歌を教え、自分たちの天の父への感謝さえも教えて下さるのである。わたしたちは自分自身では何もすることができない。しかし神は祭壇からとった生ける炭火を、わたしたちの唇に触れさせることを望んでおられる。主はわたしたちの舌を清め—からだ全体も清めたいと望んでおられるのである。(同上)

7月5日

聖書（み言葉）の目的

「み言葉が開けると光を放って、無学な者に知恵を与えます。」（詩篇 119:130）

神のみ言葉が分け与える光と知恵は、単に、主として知的な文化を推進させるために計画されたものではない。あらゆるこの世の、そして一時的な良いものよりももっと気高い目的のために聖書は人類にゆだねられた。その中に人類救済の偉大な計画すなわち、サタンの力から人類を解放することが示されているのを見るのである。わたしたちはわたしたちの救い主であられるキリストが暗黒の君と対決し、独力でわたしたちのために勝利を獲得されるのを見るのである。この勝利によってわたしたちのために望みの扉、力の源が開かれたことと、わたしたちが忠実な兵士として狡猾な敵と戦い、イエスのみ名によって勝利することができることを本当に学ぶのである。すべての魂は暗黒の勢力と戦わなければならない。老人と同様に青年も攻撃されるであろう。そして、すべての者がキリストとサタンの間の大争闘の性質を理解し、それが彼ら自身に関するものであることを悟るべきである。……

真理に対する知的な知識を得るだけでは十分ではない。……み言葉が、心の中へ入らなければならない。それが聖霊の力によって心の内に住まなければならない。意志はみ言葉の要求と調和するようにならなければならない。真理をただ知的に受け入れるだけでなく、心と、良心も同意しなければならない。

神のみ言葉が開けると無学な者（世の知恵を教えられていない者）に知恵を与えるのである。聖霊は聖書の救いの真理を、神のみ心を知り、行おうと望むすべての人々の理解の範囲内で与えられる。世の教育を受けていない精神（知性）は人々の注意を引くことのできる最も崇高で、魂を感動させるテーマ（贖われた人々が永遠にわたって歌い、かつ学ぶテーマ）を把握することができる。

それが神のみ言葉の与える知識であり、またそれは他のどこにも見出すことのできないものであり、わたしたちが他の何ものよりも必要としているものである。わたしたちは今日、サタンのわなから逃れ、栄光の冠を得るために何をすべきかを知りたいと願っている。（ビュー・アンド・ヘルド 1883 年 9 月 25 日）

光の父からの知恵

「これは、主が知恵を与え、知識と悟りとは、み口から出るからである。」(箴言 2:6)

崇高なそして本質的な知識は、神とそのみ言葉の知識である。……クリスチャンは、神のみ言葉の教えに頼り、正しく評価するにつれて、また聖なる事柄を瞑想するのに自ら慣れていくのにつれて恵みのうちに成長する。……

しかしわたしたちはだれも教育する意欲を失わせたり、あるいは精神修養や訓練の価値を低く評価したりしないようにしましょう。神はわたしたちをこの世にある限りはいつも学びそして責任を果たす生徒としておられる。……だれも自分より書物の知識のあまり優れていない兄弟の有用さや影響力を計る批評家となってはいけない。彼はまたとない知恵に恵まれるかもしれない。彼は真理の知識についての実際的な教育を受けるかもしれない。詩篇記者は「み言葉が開けると光を放って、無学な者に知恵を与えます」(詩篇 119:130) と言っている。……詩篇記者によって語られたこの知恵は、精神が真理に向かって開かれ、神の御霊によって心に入り、その原則が実際的な神に似た生活によって品性に働きかける時に到達されるのである。……

天の事柄を評価する能力に欠けている魂に生氣を与え、神と真理についての愛情を引き付けるのは神の御霊である。心の中にイエスの臨在がなければ、宗教の儀式は、単なる無感覚な冷たい形式主義となる。神との交わりを求める望みは、わたしたちが神の御霊を悲しませる時に直ちに止む。しかし、キリストがわたしたちのうちにあって栄光の望みである時に、わたしたちは常に神の栄光のことを考え行動するように促される。そして次のような質問が心に浮かぶ。「このことはイエスのみ名をあがめることになるだろうか。主によって認めていただくことができるだろうか。この関係に入ったならばわたしたちの性質をそのまま保つことができるだろうか」と。神は、魂の助言者となり、わたしたちは安全な道に導かれる。そして、神のみ心がわたしたちの生活の至高の導き手となる。これが天来の知恵であり、……それはクリスチャンを謙遜であるにも関わらず、世の光とするのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1888 年 4 月 17 日)

7月7日

クリスチ안의教科書

「聖書を調べなさい。あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。」(ヨハネ 5:39 英語訳)

「聖書を調べなさい」という警告は、現代ほどこれに当てはまる時代は他にない。現代は不安の時代であり、青年たちはこの不安な精神を深く吸い込んでいる。彼らは自分たちが占めている地位の重要性和危機を認識しようとしているのだろうか!……今日活動の舞台に登場している者を待ち構えているほど重要な問題は、これまでのどの時代にもかつてなかったものである。今日の青年ほど、神のみ使いたちによって熱心に見つめられている青年が、どの時代、またどの国にあったのだろうか。彼らが試練に会った時、堅く神のため、義のために立つか、あるいは世俗的な感化によって揺り動かされるかどうかと、全天は彼らの形成する品性のすべてのしるしを、強い関心を持って見守っている。……

神はこの短い時になすべき大きな仕事を持っておられる。主は青年たちに知力や時間、また富というタラントをお委ねになり、彼らがこれらの良い賜物を用いることについて責任を持たせておられる。主は青年たちがみ前に来てこの速やかな時代の魅惑的な感化や墮落に抵抗し、主の働きのために資格ある者となるようにと召しておられる。彼らはこの準備の働きに心とエネルギーをつぎ込まなければ有用な者となることはできない。…

祝福は、受ける者にながしかの代価を求めておとずれるというのが聖なる法則である。科学に優れた人になろうとする人々は勉強しなければならない。他の人々に知識を分け与えることができるような聖書の真理に優れた人になろうとする人々は、神の聖なるみ言葉の勤勉な生徒にならなければならない。他に方法はない。彼らは聖書を興味を持って、勤勉に良く祈りつつ研究しなければならない。……そして、無限な知恵、愛、力などはすべてのこれらの研究の後に見いだされるのである。

聖書は常にクリスチ안의教科書でなければならない。すべての本の中で聖書が青年たちに最も魅力的な本でなければならない。もしこの書の霊から深く飲むならば、彼らはこの不信仰な時代の誘惑に逆らい、サタンの罠に抵抗することのできる準備ができるのである。(ユース・インストラクター 1884 年 5 月 7 日)

真理の鉱山を探究する

「なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、神によって語ったものだからである。」(ペテロ第二 1:21)

ある人は御霊の内住が聖書の勉強や導きよりも望ましいという間違った印象のもとに聖書を軽視している。このような者はサタンのわなや運命を決定する惑わしにさらされる。聖霊とみ言葉は完全に調和している。聖霊は聖書に靈感を与え、常に聖書に導く。……宗教界のすべてのことは、聖書によって試されるべきである。「ただ律法とあかしとに求むべし、彼らのいうところこの言葉にかなわずばしのめあらじ」(イザヤ 8:20 文語訳)。内にある御霊のあかしは、清い麦を見分ける神のみ言葉によってためされ、試みられる。……

真理の鉱山は興味を持って、また勤勉に探究されるべきである。わたしたちはキリストが旧約聖書を用いて、その真理を明らかにし、その霊的な性質を示し、人々がいまだかつて見たことのない新鮮さと豊かさと美で旧約聖書を覆われるのを、いかにしばしば見出すことであろう。……わたしたちの救い主がその説明の中に示された真理は、常に拡張し、新しく、より豊かに発展していくことができる。聖書を探究しているあいだに、聖霊によって導かれている心はその著者を知る。そしてこの方のみ言葉を調べるあいだ、仰ぎ見ることによって常に輝かされるのである。このように完全な標準に到達することを望む知性ある者は、それを理解するまで高められるのである。……

天国の真理は「畑に隠してある宝」としてあらわされている。「人がそれを見つけると隠しておき、喜びのあまり、行って持ち物をみな売り払い、そしてその畑を買うのである」(マタイ 13:44)。この人は、この行為すべてに従事する(働く)辛抱強い努力により、彼は隠された宝石や、尊い鉱脈を発見するのである。賢く働く人は、たて穴を深く、さらに深く掘って、豊かな貴重な鉱脈を発見する。彼は啓示の畑が黄金の鉱脈と貴重な宝物が交じりあっており、本当に光と真理と命であるキリストの計り知れない富の宝庫であることを見出すのである。(原稿 62, 1893 年)

7月9日

神からの声

「ここにいるユダヤ人はテサロニケの者たちよりも素直であって、心から教を受けいれ、果してそのとおりかどうかを知ろうとして、日々聖書を調べていた。」（使徒行伝 17:11）

ある者にとって神のみ言葉は関心のないものである。その理由は彼らが今日の文学に見られる魅力的な物語を長い間楽しんできたので神のみ言葉の読み物や宗教的な行為に対して興味を持たないのである。この読書は、心を聖書の健全な原則を受け、そして实际的な信心をおこなうことに適さないようにする。
.....

素直な心で謙遜に聖書を読むとき、わたしたちは神ご自身との交わりを保ち続ける。そこに表された思想、はっきり述べられている教え、示されている教理は、天の神からのみ声である。聖書は研究しがいいのものであり、心がもしサタンに魅惑されていないならば、引き付けられ、喜ばれるであろう。……聖書を通して輝く光は永遠のみ座からこの地上へひらめき下る光である。……

神のみ言葉を人生の導き手とする人はすべて、原則に従って行動するであろう。心がぐらついている者、うぬぼれが強く、衣服にぜいたくで、また食欲を満足させ、生来の心の命じるままに従う者は、神のみ言葉の教えに従うことによってバランスの取れた者となる。彼らは決してふらつくことのないエネルギーを持って自分自身を義務にささげ、彼らの力は少しずつ増していく。彼らの品性は美しくなり、香り高く、利己的な面がなくなってくる。彼らは栄え、そして真理と義を愛する人々の中ではどこでも受け入れられるようになるのである。（原稿 6,1878 年）

詩篇記者は「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしきことを見させてください」と祈った。主は次の言葉が確信に満ちあふれていたもので、彼の祈りをお聞きになった。「あなたのみ言葉はいかにわががごに甘いことでしょう。蜜にまさってわが口に甘いのです」「これらは金よりも、多くの純金よりも慕わしく、また蜜よりも、蜂の巣のしたたりよりも甘い」（詩篇 119:18、103、19:10）。主はダビデの祈りを聞き、答えられたように、わたしたちの祈りも聞き、答えてくださり、わたしたちの心を喜びとうれしきで満たしてくださるのである。（手紙 25,1903 年）

各時代の書物

「主よ、あなたのみ言葉は天においてとこしえに堅く定まり、」（詩篇 119:89）

神のみ言葉は、創造から人の子が天の雲に乗って来られる時にまで及ぶ歴史を含んでいる。そのうえ、心を来世に向けて進ませ、回復されたパラダイスの栄光を見せてくれる。これらのすべての世紀を通じて神の真理は同じである。初めに真理であったものは今も真理である。次の世代にとって適切な、新しく、そして重要な真理が分別のある者に開かれているけれども、今日意義深い事柄が過去に意義深かったことと矛盾しているわけではない。わたしたちが理解したすべての新しい真理は、ただ古い真理をもっと重要なものとするだけである。（ビュー・アンド・ヘラルド 1886 年 3 月 2 日）

人類の墮落以来、父祖の時代やユダヤ時代を通じて現代においても、救いの計画によって神のご目的がだんだん示されてきている。ノア、アブラハム、イサク、ヤコブ、モーセは、キリストを通しての福音を理解していた。彼らは人間の身代わりと保証人を通して人類の救いを期待していた。これらの昔の清い人々は、人間の体をとってわたしたちの世界においてになるべきであった救い主と交わりを保っていた。彼らのうちのある者は、キリストや天使たちと、ちょうど人間がその友人と語り合うように、顔と顔を合わせて語り合った。（サインズ・オブ・ザ・タイム 1911 年 2 月 21 日）

時が創造からカルバリーの十字架へと進んで行ったように預言は成就し、今でも成就してきており、光と知識は非常に増加した。……キリストの生と死のうちに、光は過去から照り返し、全ユダヤ社会に意味を与え、古い律法と新しい律法とをすべて完全にした。神があがないの計画のうちでお定めになったもののうち不要になったものは何一つない。それが人間の救済における神のご意志の成就である。（ビュー・アンド・ヘラルド 1886 年 3 月 2 日）

啓示の真理はすべて、わたしたちにとって価値があるものであり、永遠の事柄を瞑想することによって、わたしたちは神のご品性について真の認識を得ることができる。……全品性は高められ、変えられる。魂は天と調和するようになるのである。（サインズ・オブ・ザ・タイム 1911 年 2 月 21 日）

7月11日

クリスチャンの修養

「しかるに、あわれみに富む神は、わたしたちを愛して下さったその大きな愛をもって、罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。」(エペソ 2:4-6)

もし、あなたがイエス・キリストに対し、緊密な関係に入るなら、主の律法から、今まで知らなかったすばらしい事柄を悟る。人間の心と精神に対する神の御霊のやわらかく、穏やかな影響は神の真の子たちをキリスト・イエスにあって天の場所に座らせて下さる。クリスチャンの修養は、聖霊が働くすべての心の中で続けられる。イエスをながめるすべての者の中にやわらかで、穏やかな精神が存在する。イエスの愛は常にクリスチャンの礼儀、洗練された言葉、表現の純潔さに導き、わたしたちがエノクのように神と共に歩んでいるということをわたしたちと共にいる仲間にあかしめる。話し方にも、気持ちにも、荒々しさや、性急さがなく、やさしい香気がただよ。

み言葉がわたしたちの研究となるべきである。ここに尊い金の鉱山がある。その多くは一瞥(いちべつ)されてはきた。しかし、もっと大切な宝を手に入れるために発掘がなされなければならない。この上なく不注意でいかげんな方法で表面をかき回してきた多くの人がいる一方、他の人々はもっと注意深く、もっと祈りながら、もっと忍耐深く探して、隠れた計り知れない宝が見いだされるのである。

あなたの生活がキリストと共に神に隠されていることを表しなさい。荒々しい話し方、安っぽい言葉、俗語をとりのけなさい。あなたが尊敬するお方を意識して、共にいる方をあがめ、その方にあなたのことを恥ずかしいと思わせないように行動しなさい。わたしたちはイエス・キリストを代表する者であるということだけを考えなさい。そして、言葉と態度で主のご品性を表しなさい。……神の悔い改めの力が主のご用となる器を潔め、ふさわしいものとするために日々必要である。聖書の中には、わたしたちがまだ発見し、実行すべき尊い教訓がある。わたしたちの良心はキリスト教のもっとも高い標準を認め、崇めねばならない。あなたが主にあつて光となり、柔和で心を低くするならば、能力、純潔、神の知識において豊かになるであろう。(手紙 171, 1897 年)

一変させる真理

「神の言は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と靈魂と、関節と骨髓とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。」（ヘブル 4:12）

心と精神にとどめ、生活の中で守る聖書の真理は、魂を悟らせ、改心させ、性格を改変し、心を慰め、高貴にする。……み言葉は傲慢な者を謙遜に、強情な者を柔和と悔い改めに、不従順な者を従順な者にする。人間にとっては、生来のものである罪深い習慣は、日々の行為の中に織り込まれている。しかし、み言葉はその肉の欲を断ち切ってしまう。それは思いの思想と意図を識別する。関節と骨髓を分け、肉の欲を切り離し、人を主のために苦しむことを喜ぶようにさせる。（原稿 42, 1901 年）

キリストの奉仕は天の聖なるすばらしい祝福に満ちたものである。み言葉は勤勉に探究されるべきである。なぜなら、み言葉の働きは、わたしたちのうちにある品性の不完全さを発見し、キリスト・イエスのうちに真の完全さを提示しながら、御霊の聖化は天の考案した働きであることをわたしたちに教えるからである。その完全さはもし維持されるならば、すべての魂のために完全に完成されたものとなる。わたしたちは完全にキリストに似るために、また魂の救いのためにご自身の命を与えられた主によってみ父の顔を見るようになるために聖書によって教育される。（手紙 291, 1903 年）

もし、あなたが知的なクリスチャンであれば、あなたは信仰の活力を維持し、困難に妨げられることはない。……あなたは、成功の絶頂にある時と同様に憂鬱の時にも、日なたにいる時と同様に影の中でも、平安な時と同様に試みの中でも神の働きをする。真理はあなたの人生に組み込まれるようにあなたの心の中に貯えられなければならない。そうすれば、どんな誘惑も、議論も、あなたがサタンの暗示やわなにかかるようにはさせられない。真理は尊い。それは、生涯と品性に重大な変化をもたらし、言葉、態度、思想、経験に決定的な影響力を及ぼす。真理を正しく評価する者はその影響の下に生活し、永遠の事柄が恐るべき現実であることに気づく。彼は自己のために生きず、彼のために死んだイエス・キリストのために生きる。彼にとって、神は生きておられ、彼の言葉と行為をすべて知っておられるのである。（原稿 70, 1894 年）

7月13日

神の番兵である真理

「あなたは、年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」(テモテ第一 4:12)

わたしは青年に訴える。あなたの道を考えなさい。…

もし、潔め、高める力を持つ真理が心に宿っていないならば、どのような青年もサタンの誘惑に抵抗することができない。真理は人生を正しくする影響力を持っている。それはあなたの魂を見張り、サタンの攻撃に対して行動を起こす神の番兵である。真理の聖なる影響の下に精神は強められ、知力は活発になり、唯一の真の神と、神が送られたイエス・キリストの知識に成長する。その聖なる品性に調和しない習慣や行為にふけることによって真理を曇らせてはならない。むしろ、それを最高の価値ある宝として保ちなさい。……

主はあなたが最高の方の息子、娘として、天の王の子らとしての地位にあることを理解するように望んでおられる。神はあなたが神と緊密なつながりをもって生活することを望んでおられる。……あなたは主の側にいるように決心しなさい。もしあなたが王子インマヌエルの血に染まったみ旗の下に立ち、主の任務を忠実にこなすならば、決して誘惑に負けることはない。なぜなら、失敗からあなたを守ることでできる方があなたの側に立っておられるからである。どの青年にも将来の不死の命のために品性を形成する猶予期間が認められている。神がご自分のみ座からあなたを輝き照らすのを許しておられる光によって、あなたがこの時を利用するならこの貴重な黄金のような時はあなたに与えられる。……

青年は、顔を天に向けているだろうか。彼らは心の部屋を、義の太陽に向かって開けているだろうか。彼らは心の扉を開け放ってイエスを迎え入れようとしているだろうか。なんとという品性の麗しさがキリストの毎日の生活にあらわされていたことか。この主がわたしたちの模範となるべきである。聖なるみ姿にならって、品性を形成するにあたってしなければならない偉大な仕事がある。キリストの恵みが、全人格を形づくらねばならない。そしてその勝利は、神の子らの態度の中に、むらのない優しい感情や、キリストのような愛や、聖なる行為を、天の全宇宙が認めるまでは、完成したものとはならない。(ユース・インストラクター 1899 年 8 月 3 日)

黄金のみ約束

「わたしはみ言葉を与えられて、それを食べました。み言葉は、わたしに喜びとなり、心の楽しみとなりました。万軍の神、主よ、わたしは、あなたの名をもってとなえられている者です。」(エレミヤ 15:16)

夜、わたしは、同席の人々の前にいた(注)。わたしは、彼らと信仰について語り、彼らが、この点に関してはかたに遅れた理解しかしていないことを知らせようと努めていた。……彼らは、神と、自分たちの救い主の知識について、不十分な経験しかもっていなかった。わたしは彼らが「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」(ヨハネ 1:29) というヨハネの言葉を賢く声に出さなければならないことを彼らに示そうと努力していた。知的に聞かなければならない。そして彼らは、主をご自分の罪を負われる方として見なければならぬということを示そうとしていた。

その時、最も美しく、印象的な光のうちに神のみ言葉がわたしの前に開かれた。ページは開かれていった。そしてわたしは、恵み深い招きの声、神の栄光とみ心を求めるための懇願の言葉、その他のことなどを読んだ。これらの、招きの声、約束、保証は、黄金の文字のように目立っていた。あなたがたはなぜそれらが分からないのですかとわたしは言った。まず、何にもまして神を知ることを求めなさい。聖書を調べなさい。霊と命である神の言葉を食しなさい。そうすればあなたの知識は大きく、そして拡大する。あなたの聖書を学びなさい。多くの本に書かれている哲学を勉強しないで、生ける神のみ言葉という哲学を勉強しなさい。他の文学は、聖書に比べるならば、ほとんど意味のないものである。非常に多くのつまらなく物足りない事柄であなたの心をいっぱいにしてはならない。神のみ言葉の中には、あなたのために最も豊かな宴が設けられている。それは主の食卓であり、あなたが食べて満ち足りる食物が豊かにふるまわれている。

神のみ約束は、金の文字で書かれているごとくに、明白にはっきりと輝いている。それなのに、なぜ彼らは喜ばないのであろう。なぜ心が感謝と賛美で満たされないのでしょうか。あなたの舌は、なぜ沈黙しているのであろうか。……話すタラントが乱用されている。言葉を選ぶタラントは、感謝と喜びのうちに、神にささげられなければならない。これは、主のみ名をあがめる。自己を完全に神にゆだねなさい。「キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。……いつも感謝していなさい」(コロサイ 3:15)。(手紙 47,1898 年)

注 エレン・G・ホワイトは、ここで、夢かまたは夜の幻を述べている。

慰めの泉

「わたしの魂は髓とあぶらとをもってもてなされるように飽き足り、わたしの口は喜びのくちびるをもつてあなたをほめたたえる。」(詩篇 63:5)

鉱夫が金を捜し求めるように、真理を求めるすべての者のために髓とあぶらがある。神がお教えになるのは、どういう者に対してであろうか。イザヤは「いと高く、いと上なる者、とこしえに住む者、その名を聖となえられる者がこう言われる、『わたしは高く、聖なる所に住み、また心碎けて、へりくだる者と共に住み、へりくだる者の霊をいかし、碎ける者の心をいかす』」(イザヤ 57:15)と言っている。一彼らは自分たちの改心していない性格の悪を知って悔い改め、きわめて貧弱にしかキリストを表していない生活を嘆いている者である。……

あなたのまわりに輝いている尊い光線を集めて、み言葉の上で一つの炎となるように、それらの焦点を合わせなさい。うわべだけの読者には、隠されている宝が、明白にはっきり浮かびでてくるであろう。啓示の畑のどこにでも、金の粒―神の知恵の言葉がちらばっている。もしあなたが賢ければこれらの尊い真理のかたまりを寄せ集めるであろう。神の約束をあなたのものとしなさい。そうすれば、試みと試練が来た時、これらの約束は、あなたにとって天の慰めの喜ばしい泉となる。あなたがみ言葉を学ぶ時、それはあなたにとって知識の泉となる。このようにあなたは、神のみ子の肉を食べ、血を飲むのである。

神がご自身の聖霊によって、あなたのために光と真理をあらわされるように求めなさい。そうすれば、あなたは読んでいる主のみ言葉を理解するであろう。復活の後、キリストが、エマオへの弟子と歩かれた時、主は、彼らがみ言葉を理解できるように、彼らの悟りを開かれた。同じ、聖なる教師が、わたしたちが心の窓を天に向けて開き、地に向けて閉じるならば、わたしたちの悟りを開かれる。聖霊の働きは、わたしたちがすべてのことを思い出すようにされ、真理の中にわたしたちを導かれることである。

主はわたしたちを愛しておられる。であるから、わたしたちは心から主を愛するべきである。すべての真理に導いてくださるように主に求めなさい。主はそれをしてくださる。主はそれをしようと切望しておられる。主は、あなたが、真の謙遜と、主が聞いて答えてくださるという固い確信を持って、主に求めるのを待っておられる。(手紙 25,1903 年)

得たものを損と

「わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。それは、わたしがキリストを得るためであり、」（ピリピ 3:8）

神のみ心は何であろうか。神に栄光を帰すために何をしたらよいだろうか。わたしは、二心なくわたしの救い主に仕えることを誓っている。わたしはキリストを得るために一切のものをくだらないものと思っている。天、永遠の命、それこそわたしにとって価値のあるものである。キリストは、わたしが永遠の栄光の富を所有するようにと死なれた。……

わたしたちは永遠の事柄が含まれていることに関して、どんな過ちも犯す余裕はない。神がわたしたちに求められることに無関心であることは、最大の恩知らずである。わたしたちはこの偉大な救いをないがしろにして、潔白ではありえない、永遠の喜びは、すべてのアダムの息子、娘たちのために買い取られた。そして、すべての人は不死の遺産、永遠の資産のための資格を持つことができる。もしも彼らが恵みの時に、神の戒めに従順であることを現すならば。すべての者は、この世でテストされる。もし、彼らが信仰によって、キリストの功績をつかみ、心から神に仕えるならば、彼らはイエスが主を愛する者のために用意された家を継ぐ者となる。……

この上なく神を愛し、わたしたちと神の間にどのような影響も及ぼさせてはならない。神が、わたしたちの道の上に輝かされる光に心をとめねばならない。全天の前で、わたしたちは、すべての光の流れを喜んでいることを示さなければならない。そして、その光を他人に反映しなければならない。わたしたちは神に対して、他人に影響を与える責任を持っている。たとえわたしたちは、見たところ一人で立つように強いられても、一人ではない。なぜなら、わたしたちに勇氣と力と祝福を与えるためにキリストが共におられるからである。主はあなたの心のすべての願いとあなたの魂のすべての目的を知っておられる。主は「わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに帰って来る」と言っておられる（ヨハネ 14:18）。神は約束されたように、それをなさるということを信じようではないか。……

わたしたちは、わたしたちの心を吹き流されて目指すところがないもののようにしてはならない。わたしたちは、主がまもなく来られることを知っている。だから正しく神に仕え、服従の道を歩むために、岩のようにしっかりとしなければならぬ。なぜならば、それが唯一の安全な道だからである。（原稿 51a, 1893 年）

7月17日

怠慢の危機

「兄弟たちよ。それだから、ますます励んで、あなたがたの受けた召しと選びとを、確かなものにしなさい。そうすれば、決してあやまちに陥ることはない。」(ペテロ第二 1:10)

世の救い主は「聖書を調べなさい」と言われた(ヨハネ 5:39)。聖書の中には、人類の必要に対する惜しみない備えと、悔い改めと服従に導くために最も強い動機が明らかにされている。この中に、真理を求める者は読み、瞑想することによって、慈しみ深く恵み深い神が過去に自分のためになされたこと、また今もなしてくださっていることを知り、心の底から奮い立たせられるのである。彼は神が提供できる最高のものをお与えになった人間の贖いについての驚くべき愛と許しを、いかに人がないがしろにしてきたかに驚くであろう。そして、これほどの愛の対象である人間が救いを無視するなら、天は彼らのためにこれ以上のことをなすことはできないのである。……

あなたはこれらの偉大な主題を研究し、熟考する必要がある。さもないと、無関心を抱き、あまりに無感覚になってすばらしい救いの計画の条件に従わなくなったり、また自尊心が高すぎて自分の墮落した状態を認めて謙遜になれなくなったりするからである。……

主は、子供や青年たちに隠された宝を探すように真理を求め、人性を神性に結び付ける事柄に引き付けられ、熱中するように命じておられる。……使徒は「わたしたちは、こんなに尊い救いをなおざりにしては、どうして報いをのがれることができるのか」(ヘブル 2:3)と言っている。……

天使の力は、わたしたちの罪を贖うことはできない。天使の性質が、人間に結合しても、神の律法のように尊く高くはなり得ない。受け入れられる犠牲を提供できたのは、神のみ子だけであった。この問題—いかに神は義であられながら、罪人を義とすることがおできになるか—は、すべての有限な知性ある者を当惑させた。聖なる方のみが、神と人間の仲介者となることができた。人間の贖いは、思考能力を最高度に用いるべき主題である。

青年に対しても大人に対しても、この偉大なる働きにおいて自分でなすべきことは何もないと言うことはできない。わたしたちは、絶えず努力するように勧める。あなたは、あなたの召しと選ばれたことを確かにするために、勤勉でなければならない。(ユース・インストラクター 1887年8月31日)

知識の豊かな奥深さ

「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」(ヨハネ 7:17)

わたしたちが熱心に真理の探究に心を向ければ向けるほど、真理の証拠がますます明らかになる。さらに密接にあらゆる知恵の神に近づき、すべてを造られた主と交わるようになり、わたしたちの知識はさらに豊かになり、さらに充分に天の真理を理解するようになる。神は恵みを持って人間に知力を授けられた。そしてこの力は、賢く用いられるべきでる。人間は、品性における知識の豊かな奥深さ、神のみ言葉と神の働きを探究し、理解する能力を持っているのである。神は喜んで服従する者に神の愛の宝庫を開かれる。神のみ心をなそうと思う者は、神の教えを知るであろう。

神と交わることによって、わたしたちは洗練され広くされ、高められる。聖なる事柄の知識を望む者に対しては、神はご自分の御霊によって啓発されていない者には理解できない隠れた不思議をあらわされる。……

救いの偉大な賜物は、父と御子の無限の犠牲によって、わたしたちの届くところに置かれている。救いをなおざりにすることは、御父と神が送られた御子の知識をなおざりにすることである。……

救いの計画の偉大さと広さは、比較できない威厳を持っている。しかしそれは霊的にだけ識別できるものであり、わたしたちがそれを瞑想する時、それは、ますます偉大なものになる。十字架で死なれたイエスを見るとき、そしてわたしたちの罪が、無罪の苦しまれる方のところに置かれているのを知る時わたしたちは、主の前に驚嘆と愛のうちにぬかずくのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1891年3月10日)

真理を、さらにはっきりと知りたいと願ってキリストのところに来る者は、みな教えを受けることができる。キリストは、彼らに天国の神秘をご説明になる。こうした神秘は、真理を知ろうと願う人には、必ずわかるのである。天からの光が、魂の宮にさしこんでくる。そして、その光は、暗い道を照らすともしびのように、人びとの前に輝きでるのである。(キリストの実物教訓 13)

7月19日

神の知恵に対する人間の知恵

「それは、あなたがたの信仰が人の知恵によらないで、神の力によるものとなるためであった。」(コリント第一 2:5)

今日一般的に見られる風潮は、不信仰と背教である。世界にはつきりと示されている精神は、自尊心と自己称揚の風潮である。人は啓示を受けていると自慢するが、この啓示は、本当は最も盲目的な僭越である。なぜなら、それらは明白な神のみ言葉に反しているからである。多くの人は、人間の判断で力を高め、人間の知恵を偶像視し、神のあらわれた知恵よりも、人間の意見を高く評価する。……クリスチャンであると告白する多くの人々の間で、神の律法の違反が悲しむべきことであることを理解している人は少ない。彼らは、救いはキリストの血潮によってのみ得られることを悟っていない。……

哲学、科学と偽り呼ばれているむなししいものが、人間の目には神の言葉よりももっと価値がある。聖なる仲保者は人間の救いのために不可欠なものではないという心情が広範囲に行き渡っている。人間の向上のためにいわゆる世的な賢者によって推し進められた多くの学説が、キリストや使徒たちによって教えられた神の真理以上に信じられ、頼られている。(ビュー・アソド・ハラルド 1892 年 11 月 8 日)

主はわたしたちが個人的に聖書を探り、それによって贖いの偉大な計画に精通し、神の御目的を理解するために、神の御霊に啓発された人間の心に可能な限りこの偉大な主題を取り上げるよう望んでおられる。そして神は悪を破り、神の造られたものから罪の汚点を取り除き、失われたものを回復し、キリストの着せられる義を通して魂を本来の純潔に高め、また高貴にするために、ご自分の御子を死に渡されることによって、わたしたちが神の素晴らしい愛をいくぶんかでも理解するよう望んでおられる。墮落した人類が回復させられる唯一の方法は、神と等しくあられ、神の属性を所有される御子の賜物を通してである。……

神は、わたしたち人類にご自分を正しく評価、理解できる特性をお与えになった。人間は神に背き真の神の代わりに他の神々に礼拝しようと努力してきたが真の神のみが魂の必要を満たすことができるのである。(同上)

真理の創始者と教師

「わたしは真理についてあかしをするために生れ、また、そのためにこの世にきたのである。だれでも真理につく者は、わたしの声に耳を傾ける。」(ヨハネ 18:37)

キリストはあらゆる真理の創始者であられる。あらゆるすばらしい考え、知恵ある思い、能力、人間のタラントはキリストの賜物である。主は、人間から新しい思想を何も借りたりなさらなかった。なぜなら、主がすべてを始められたからである。しかし、主が地球に来られた時、人間に対して委託されていた真理の輝かしい宝石が、迷信や伝統に埋もれているのをご覧になった。最も生命の維持に必要な重要性を持っていた真理は、大欺瞞者の目的に奉仕するため、偽りの枠の中に置かれていた。……しかし、キリストは、あらゆる種類の誤った説を取り除かれた。世の贖い主を除けばだれも真理をその本来の純潔さで表す力はなく、またサタンがその天来の美しさを隠すため少しずつためてきた誤りを取り去ることはなかった。……キリストの働きは、人間に欠乏していた真理を取り上げ、それを過ちから引き離し、世の迷信から解放し、真理自身に本来備わっている永遠の功績によってこの真理を人々が受け入れるようにすることであった。主は疑いの霧を追い払われた。それにより真理は明らかにされ、真理が人の心の暗闇にはっきりとした光の筋を降り注いだ。(ビュー・アソド・ハルド 1890年1月7日)

主の唇から出た真理は、新しい興味のある表現によって覆われており、そのことが新しい啓示の新鮮さを与えていた。主の声は、決して不自然な音階を持つておられず、主の言葉は、み言葉の重要さと、そして、彼らが受け入れるか拒絶するかという重大な決定にふさわしい熱心さと確信を持っていた。(同上)

主は、人々が主に学ぶように勧められた。なぜなら、主は、神の律法の生ける代表であられたからである。主は、人性という衣のうちに、証人の国の中に立つことのできた唯一の方であられた。そして、まわりの者を見渡しながら「あなたがたのうちだれがわたしに罪があると責めうるのか」と言われる(ヨハネ 8:46)。主はどのような人間も、主のご品性、行動の中に過ちを指摘し得ないことを知っておられた。主のしみのない純潔が、主の教えに、何という力を与えたことであろう。主の譴責に、なんという威力を与えたことであろう。主の命令に、なんという権威を与えたことであろう。……主は、ご自身が、道であり、真理であり、命であることを証明された。(同上)

7月21日

聖書の中心主題

「モーセやすべての預言者からはじめて、聖書全体にわたり、ご自身についてしるしてある事どもを、説きあかされた。」(ルカ 24:27)

聖書を学ぶとき、いつも心に覚えられるべき一つの偉大な中心的真理—キリストと十字架につけられたキリスト—がある。他の真理はこの主題に関係づけられて感化と力を与えられる。わたしたちが神の律法の高貴な性質を識別することができるのは十字架の光の中だけある。罪によって麻痺した魂は、わたしたちの救いの創始者による十字架でなされた働きによってのみ命が与えられ得る。キリストの愛は主の働きと犠牲のうちに人間が主と結合せざるをえないようにさせられる。聖なる愛の啓示は彼らが世に光を掲げる義務を怠っていたという意識をさまし、彼らに伝道精神を吹き込む。この真理は心を啓発し、魂を清める。それは不信を取り除き信仰を鼓舞する。……贖いの働きをされたキリストが真理の体系の偉大な中心真理であると知られる時、新しい光が過去と将来のすべての出来事の上に降り注ぐ。それらは新しい関係の中で悟られ、新しく、より深い意味を持つ。(原稿 31,1890 年)

旧約聖書は新約聖書が展開する力を持っているように真に型と影の福音書である。新約聖書は新しい宗教を提供するのでも、旧約聖書は新約によって取って代わられるべき宗教を提供しているのでもない。新約聖書は旧約の進展、展開である。アベルはキリストを信じ、ペテロやパウロと同様に主の力によって救われた。エノクは愛された弟子ヨハネと等しくキリストの代表であった。……エノクと共に歩まれた神は、わたしたちの主なる救い主、イエス・キリストであった。主は現在と同じようにその時も世の光であった。(教会への証 6 巻 392)

今日の真理は広い内容を持ち、深遠で、多くの教理を持っている。そして、これらの教理はあまり意味をもたないばらばらのものではない。それらは金の糸で結ばれた完全な全体を形成し、キリストを生きた中心としてつながっている。(レクテッド・メッセージ 2 巻 87)

あなた自身の意志であろうか

「悟りは人に怒りを忍ばせる、あやまちをゆるすのは人の誉である。」(箴言 19:11)

体に対する義務と魂に対する義務があるとすべての者はそれを実行しようとするにあたって、神と協力しなければならない。……安っぽい鋳型を受けることに甘んじてはならない。青年は健全な良識を持つ必要がある。なぜなら、彼らは二つの世界に生きているからである。……

真理をあなた自身の個人的な実情に適用しなさい。あなたの魂は救われるか、滅びるかである。あなた自身の意志を持ちなさい。しかし、それを神の意志に従わせなさい。あなたは怒らないように、また尊大にならないように、そして性急であつたり、横柄な者にならないように決心しなさい。もしもこれがあなたの弱点であれば、人が折れた手足を守るようにその点を守りなさい。あなたの精神を見張り、性急な精神があなたを征服しないようにしなさい。自分の弱さに屈することをしっかり拒むことによって存在する悪を克服できることを知って、注意深くあなたの性格の弱点を吟味しなさい。短気という悪や悪意のある気性、またわがままな気質は、どのような若者でもきちがいじみた人にする。正気を保っていない。やわらかな答えは怒りをそらす。悪は……繰り返しによって増大する。……

小さい事柄の重要さを、小さいからといって軽んじてはいけない。行為と反応によってこの小さい欠陥は少しずつたまって、それらを鋼鉄のむちのように互いに結び合わせる。小さい行動は、それは不用意な言葉であっても、繰り返せば、習慣となり、……習慣は品性を構成する。……

親切や優しさ、また同情心を養いなさい。そしてこれらの特質を決して気の弱さと呼んではならない。なぜなら、それらはキリストの特性であるから。あなたの影響力に注意深くありなさい。それが他人のなかに再生されても恥ずかしくない清い香気あるものとなるようにしなさい。水のしずくが河となる。そのように小さな事柄が生活を作り上げる。人生は河であり、平和と平穩、そして喜びか、あるいは苦勞の河である。それは常に泥と汚物をたい積する。人生においてあなたは聖霊の訓練の下に自分自身を置くことができるのである。御霊のきよめを通して、あなたは、キリストのようにだんだんと成長するのである。(手紙 46,1898 年)

7月23日

真理というよりどころ

「なぜなら、この世の知恵は、神の前では愚かなものだからである。『神は、知者たちをその悪知恵によって捕える』と書いてあり、更にまた、『主は、知者たちの論議のむなしいことをご存じてある』と書いてある。」(コリント第一 3:19, 20)

神のみ言葉がわたしたちの指針であるべきである。このみ言葉が含んでいる真理には、あて推量は不要である。何か新しい、また一風変わったものを捜し求めるためにこの誤ることのない指針を手放さないようにしよう。……「書いてある」という土台を持っていない多くの教えがある。それらは単に人間の推測にしか過ぎない。キリストが荒野でサタンの試みに抵抗されたのは、「書いてある」と言う言葉であり、そして、この武器で武装された。主は敵に対して「これを越えることはできない」と言うことができた。

わたしたちはいかなる人間の、たとえ学者の意見であっても、もし偉大な教師の言葉と調和するものでないならば受け入れることは安全ではない。誤りを犯しやすい人間の意見がわたしたちの前に受け入れやすく提示される。しかし神のみ言葉がわたしたちの権威であり、神のみ言葉の教えに一致する最も決定的な確証がないならば、人間の教えを決して受け入れてはいけない。わたしたちは永遠の真理一生ける神のみ言葉というよりどころの上に立っているのを確かに知っていることを知るべきである。(手紙 25,1903 年)

真理、神のみ言葉からの尊い真理は公衆と多くの家庭に啓示されるべきである。わたしたちは最後の時代の危機に立つ人を備えさせる使命を持っている。……真理は襲ってくるすべての試みに耐える。サタンの詭弁に打ち負かされることはない。真理は攻撃されればそれだけ輝きを増す。敵の積極的で熱心な働きのあるしを見る時、わたしたちは真理を、はっきり決定的に与える努力をしようと決心しないでいられようか。わたしたちは神の力と御霊の前にあって、偉大な教師からの教えを受けたり分け与えたりしないでおれようか。……「主よ、あなたはわが神、わたしはあなたをあがめ、み名をほめたたえる。あなたはさきに驚くべきみわざを行い、いにしえから定めた計画を真実をもって行われたから」(イザヤ 25:1)。……わたしたちはイスラエルの神、主のみ言葉に錨をおろそうではないか。(手紙 268,1906 年)

神の定められたしるし

「わが安息日を聖別せよ。これはわたしとあなたがたとの間のしるしとなって、主なるわたしがあなたがたの神であることを、あなたがたに知らせるためである。」
(エゼキエル 20:20)

わたしたちはどのようにして神の真のしもべたちと、多くの人を惑わすために起こるであろうとキリストが言われた偽りの預言者とを区別するだろうか。品性の試金石は一つしかない、すなわちエホバの律法である。

イスラエルの民は彼らが神のものであることを示すために血のしるしを戸口に塗った。今日の神の民も神が定められたしるしを持つ。彼らは自らを神の聖なる律法と調和させる。しるしは、ちょうど、滅亡から民が守られるためにヘブルの住まいの戸口に置かれたように神の民の一人一人におされる。神は「わたしはまた彼らに安息日を与えて、わたしと彼らとの間のしるしとした」(エゼキエル 20:12)と言われる。……わたしたちは欺かれる必要がない。……

サタンの使たちは地上を言葉で表現できないほどの恐怖の場所とした。戦いと流血がクリスチャンと公言する国民の間で行われている。神の律法に対する無視は確かな結果をもたらす。現在なされている大争闘は単なる人対人の戦いではない。一方の側には人間の身代わり、保証人となられた命の君が立ち、他の側には、暗黒の君が彼の支配下にある墮落天使を従えて、立っているのである。

神に忠実な人々と、主の律法に侮蔑する人々の間には鋭い対立がある。教会は世と手をつないだ。神の律法に対する崇敬の念が徐々に失われている。宗教指導者は人間の戒めを教えている。今日の世界はノアの時代のようなものである。しかし、不忠誠と違法の普及が神の律法を恐れてきた人をも、律法を重んじなくさせたり、律法を軽蔑する世の努力と結合させたりしてよいものであろうか。真の忠誠は悪の流れに流されてしまうものではない。彼らは神が聖として分けられたものを嘲笑ったり、軽蔑したりしない。テストは一人一人に来る。二つの側しかない。あなたはどちらの側にいるか。(レビュー・アンド・ヘラルド 1900年2月6日)

7月25日

「いにしえの道」での安全

「主はこう言われる、『あなたがたはわかれ道に立って、よく見、いにしえの道につき、良い道がどれかを尋ねて、その道に歩み、そしてあなたがたの魂のために、安息を得よ。しかし彼らは答えて、「われわれはその道に歩まない」と言った。』」（エレミヤ 6:16）

どこにも安全はない。サタンは大きな力を持ってやってきて、滅びる者たちの中で不義の側に属する、欺かれやすい者すべてを動かそうとしている。キリストのみ足の跡に従わない人々は自分が他の指導者に従っているのに気づくであろう。彼らは真の羊飼いの声が区別できなくなるまで不思議な声に聞き従ってきた。少しずつ彼らは警告や譴責、そして教えに注意を払わなくなった。人間の知恵が入り、人間の想像力が続いた。人間の努力や工夫に大きな信頼がおかれ、彼ら自身の知恵や発明に全く満足して、彼ら自身の行いで満たされるまでいつのまにか進み続ける。

真理の泉から十分に飲みなさい。そして、み言葉の注意深い研究者となきなさい。なぜなら、主は真理のみ言葉をとられ、聖霊によってあなたが尊いみ言葉を単純さと熱心を持って、提示できるように、あなたの心に真理を刻印されるからである。「主にあつていつも喜びなさい」なぜなら、イエスは喜んで、あなたの不完全さ弱さのままであなたを受け入れ、あなたを主の子供としてご覧になれる。それゆえ、主を信じなさい。よく整った生活、敬虔な会話によってわたしたちの救い主であるキリストの教えを飾りなさい。「あなたがたの寛容をみんなの人に示しなさい。主は近い。何事も思い煩ってはならない」一つまり、過度に案じてはならない―「ただ事ごとに感謝をもって何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい」。イエスを信じる者、主にすべてを告げる者に、なんという特権が与えられていることであろう。「そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあつて守るであろう」（ピリピ 4:4-7）。

神を信じる信仰を持ちなさい。どんな嵐の時でも、あなたの信仰の創始者であり完成者であるイエスを見上げればあなたは主にあつて完全な者となる。だれでも引き返すことのできるいにしえの道にとどまりなさい。もっとも聖なる信仰の中に根ざし、土台を作り、建設しなさい。そしてすべての人に知られ、読まれる生きた手紙になりなさい。（手紙 147, 1896 年）

神の園

『人はみな草のごとく、その栄華はみな草の花に似ている。草は枯れ、花は散る。しかし、主の言葉は、とこしえに残る』。これが、あなたがたに宣べ伝えられた御言葉である。」(ペテロ第一 1:24, 25)

もし、わたしたちの心が神の御霊の感化に対して開かれているならば、わたしたちは自然の単純で美しい事柄から教訓を学ぶであろう。わたしは家以外には何も眺めるところのない建て込んだ町々の中で圧迫感を感じる。花々はわたしたちにとって絶えざる教師である。かん木や花はわたしたちの幸福のために美しいつばみや咲き乱れる花を完全なものにする大地と空気という財産を自分たちのもとへと集める。しかし、それらは神の伝道者であって、わたしたちは彼らがわたしたちに教える教訓を熟考すべきである。

まさにそのように神は主のみ言葉全体にわたって、尊い約束を与えられた。聖書は神の園のようにわたしたちの前に開かれ、そのみ約束は、香り高い花のように園全体に満ちている。神は特別に注意をわたしたちにふさわしい事柄に向けさせられる。これらのみ約束の中に神のご品性を認め、わたしたちに対する神の愛を読み取る。それらは、わたしたちの信仰が置かれる土台であり、信仰と希望の支えと力であり、そしてこれらを通して魂を神にあって喜ばせ、天の香気の中で、呼吸するのである。尊いみ約束を通して神は、将来から覆いを取り外し、主を愛する者のために主が備えて下さった事柄を見ることをお許しになる。……

それらを不注意にまた無関心に扱うべきではない。むしろ、尊い花を調べる時、わたしたちの心は、花の麗しさと、香気に喜ぶ。ちょうどそのように、わたしたちは、神のみ約束を手にとって一つ一つ詳しく色々な側から調べるべきである。その富を受け、心を静め、慰め、励まされ、そしてそれらによって力を得なさい。神は、すべての人に魂が必要とする慰めを与えられてきた。それらは、友のない人、貧乏に打ちひしがれた人、金持ち、病人、家族に先立たれた人々に適切である。すべての人々が信仰によってそれらを見つめ、またつかむならば、彼らは適切な助けを受ける。神は、人生のでこぼした道を楽しむためにわたしたちの道にそって祝福をまかれている。すべての慰めを受け取り、喜びの心を持って神の愛のしるしを受け取りたいものである。(レビュ・アソド・ハルト 1887年 10月 11日)

7月27日

あなたはどちらの側に属するか

「だから人の前でわたしを受け入れる者を、わたしもまた、天にいますわたしの父の前で受け入れるであろう。」(マタイ 10:32)

真理、すなわち人間の心へ及ぼす感化が本物であるべき真理が、天の宇宙の前に、墮落していない世界の前に、そして人間の前で認められなければならない。だれも自分自身の救いや、福音が提供する霊的祝福の最も小さい部分を自分の行いによって得たのだという考えを心に抱いてはならない。主は、あからさまな男らしい告白を求めておられる。「主は言われる、『あなたがたはわが証人』」(イザヤ 43:10)。クリスチャンの品性の美徳を切望する不信仰な者が、神が意図しておられるような者(世に対し、天使に対し、また人々に対して、隠れることのできない丘の上に建設された町のように壮大な見世物)となるまで、わたしたちの救い主であるイエス・キリストに対する知識が向上して効果的に得られるものは何もない。……

人が、自分の足を彼の土台として堅い岩であるイエス・キリストの上に置く時、彼はすべての知識と知恵、そして霊的能力の源である方から送られる力を受ける。そしてすべての者は、彼がどちらの派に属するか(律法を守る者であるか、あるいは律法を破る者であるか)を知るであろう。彼の頭の上にはためくインマヌエルの君の旗は、すべての不確かな者に、わたしたちが神の戒めを守る者、そしてイエスの証を持つ者であることを理解させる。イエス・キリストの愛は、迫って来る力を持っている。(手紙 128, 1895 年)

イエスが「あなたは神の子であるか」という質問を受けた時、主ははっきりした返事が、主の死を確かなものにすることを知っていた。否定は、主の人性を汚すことになったであろう。沈黙するに時があり、語るに時があった。主は、はっきりと尋問されるまで黙っておられた。主の弟子たちに対する教訓の中で主は次のように言うておられる。「だから人の前でわたしを受け入れる者を、わたしもまた、天にいますわたしの父の前で受け入れるであろう」。挑戦されたとき、イエスは神とご自分との関係を否定しなかった。その厳粛な瞬間に主のご品性がかかっており、真正であることが証明されなければならなかった。主は、その時、同じような状況に置かれる人間のために模範を残された。主は苦しみや死から逃れるために信仰を捨てることがないようにと、後に続く者に教えようとされたのである。(SDA バイブルメントー [E・G・ホワイトメント] 5 巻 1124)

どっちつかずのクリスチャン

「あなたがたは、世の光である。山の上にある町は隠れることができない。また、あかりをつけて、それを柵の下におく者はいない。むしろ燭台の上において、家の中のすべてのものを照させるのである。」(マタイ 5:14, 15)

だれにも自分の光を隠そうとする気持ちにさせてはならない。世が自分と闇のうちに歩く者を区別できないように自分の光を隠す者はまもなく光を発散する力をすべて失うであろう。彼らは、五人の愚かな乙女たちによって表された者たちである。そして、危機が訪れ「さあ、花婿だ、迎えに出なさい」(マタイ 25:6)という声が聞こえる時、彼らは、彼らのランプが消えているのを知って立ち上がる。彼らは世の事柄にわずらわされて恵みの油で自分を準備していなかったのである。彼らは平和だ無事だという叫び声で眠るようになだめられていた。そして彼らのランプを整えて燃やさなかったのである。暗闇に起きて、彼らは油を求めた。しかし一人のクリスチャンが他の魂のために品性を与えることは不可能である。品性は譲渡できるものではない。安逸を愛し、流行を愛しながらクリスチャンであると告白する者は、五人の賢い乙女によって表されている者たちと共に、小羊の婚姻の席に入ることはない。彼らが入場を懇願するとき、戸は閉められていると言われる。今こそ光を分け与える時である。……

現代の真理の光を持つことは些細なものであると考えられてはいない、けれどもこのことに対しては責任を持たないのである。「わが主の来られるのは遅い」と言葉に出さなくても態度と気持ちによって語ることは些細な事柄ではない。もしわたしたちが熱心さと決意を示し、わたしたちの主のまもなく来られることについて人々に警告する義務を持つ立場を現わすならば、わたしたちのうちに有る「平和だ無事だ」との感覚の精神と影響は(キリストの間もなく来られるのを信じると公言する多くの人々を囲んでいる雰囲気)、マラリヤの性質を持つもので起こされるべき人々を麻痺状態にさせるものである。わたしたちは真理を語らなければならない。わたしたちは自分の光をはっきりと、またしっかりと光線を輝かせ、どの魂もわたしたちの光が暗くなっているためにつまずいたり、ころんだりすることのないようにしなければならない。(手紙 84, 1895 年)

7月29日

光のうちに進む

「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ 5:16)

真理の経験に基づく知識を持っている人は、尊い光を伝えるために神に対して義務を持っている。……ある者は罪を悟らされ、愛とやさしさを持って彼らに語られた言葉に注意を払うであろう。真理は彼らを罪の奴隷から解放し、世の原則の縄目から解き放つために彼らが必要としているそのものであることを彼らは知るであろう。彼らの前には、彼らがこれまでにしていなかった思想の主題、行動の分野が開かれる。贖い主イエスにあって、彼らは無限の知恵、無限の義、無限のあわれみ一人の知識を越えた愛の深さ、高さ、長さ、広さを認めるであろう。キリストの品性の完全を見つめ、キリストの使命、愛、恵み、真理を瞑想するとき、彼らは魅せられる。魂の大きな欠乏は満たされ、詩篇記者と共に「目覚める時、みかたちを見て、満ち足りるでしょう」(詩篇 17:15) と彼らは言うであろう。信仰と愛の聖なる対象はイエス・キリストであるということを彼らは知る。これらのゆえに世の愛、世的な富への愛着は終わりを告げる。

このような魂は神のみ言葉を自分自身に当てはめる。彼はキリストの奇跡、自己否定、自己犠牲、十字架にかけられたことが、彼のためであったことを知る。心の言葉は「彼はわたしのために死なれた。このお方が死にあって勝利されたのは、わたしが滅びることなく主を自分の個人的な救い主として信じ、神の命ではかれる命を持つためであった。主の恵みという富の中でわたしは永遠に続く宝を所有している」と言うであろう。

世はもはや、彼の研究課題でも、神でもない。彼は絶えず求め、満足するべき宝—信仰をもって求め、自分のものとし、他人に分ち与えるべき尊い事柄の無尽蔵の鉱脈—を彼のために保有するみ言葉の知識に飢え渴く。彼は生ける水の源、救いの井戸を発見し、そこから常に汲みあげる。そして供給が途絶えることはない (手紙 47,1894 年)

光を愛する者への光

「光は正しい人のために現れ、喜びは心の正しい者のためにあらわれる。」(詩篇 97:11)

キリストは聖霊をこの世におけるご自身のご代表として、すべての飢え渇く魂に天の助けを与えるために残された。……わたしたちは、この世界歴史のもっとも厳粛な時に生存している。そして、光は光の中を歩む者たちのために輝いている。

.....

光を持っていなかった多くの人々がいる。しかし彼らは有罪には処せられない。彼らは人間の無知のために悲しんでいる。彼らは何も満足できるものを見出せず、真の唯一の神の知識に渇いている。彼らは心に神に対する観念を持ち、神を発見しようと望んでいる。神は光を求めて祈っているすべての人々に与えるために光をご自分の民に委ねておられる。神は真理の知識、徳、神聖に飢えている人々を元気づけるためにご自分の救いの流れを与えてこられた。わたしたちも、使徒パウロがアテネ人に言ったように「あなたがたが知らずに拝んでいる者を、今知らせてあげよう」と言うべきである(使徒行伝 17:23)。天の靈感が人に与えられ、彼らは福音の真理を委ねられた。そしてそれによって人に神を知らせるために、神が与えて下さった力を捧げるという厳粛な責任を課せられている。キリストは「永遠の命とは、唯一のまことの命でいますあなたとまたあなたがつかわされたイエスキリストを知ることであります」と言っておられる(ヨハネ 17:3)。……

キリストの精神を持っている者は、「彼が歩かれたように歩く」。彼らは神の律法に生き、キリストに養われ、神聖にあずかり、真理のための生ける見張り兵として立つ。誠実な心で彼らは、「彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない。触れなければ、わたしはあなたがたを受けいれよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能の主が、こう言われる」と叫び声を上げるであろう(コリント第二 6:17, 18)。……

神は光を愛する者に光を与えられる。そして死の谷と陰にいる者に光を与えようと、最も高価な価値のある何かを求めるように真理を求める者に真理を与えられるのである。(手紙 84, 1895 年)

7月31日

神にあなたを支配していただきなさい

「われらの神、主の恵みを、われらの上にくだし、」（詩篇 90:17）

神はあなたが神に支配していただくようになるのを望んでおられる。そうすれば、あなたは立派なクリスチャンになるであろう。主は生来の遺伝的な品性の特徴を剪定ナイフの下に持ってくるよう望んでおられる。しっかりとイエスを見なさい。そうすればあなたは主の精神を獲得し、キリストのような品性という特質を心に持つであろう。そしてあなたがキリストから主の柔和、情愛、優しさ、同情を学んだということが、あなたに接するすべての人によって、認められるであろう。愛情深い愛すべき精神を獲得するまで満足してはならない。あなたの言葉はあなたの周囲の人を強め、助け、祝福し、勝ち取るために心の良い倉から出て来るであろう。……他の人々はあなたの精神を受け止める。わたしたちがまく種は、善、忍耐、親切、愛か、あるいは正反対のものを刈り取る。……

多くの、実に多くの人が心を和らげられる必要がある。原則に正しく神に忠実でありなさい。しかし、人に厳しく不親切な面を表してはならない。神はあなたがパテのような性質（人の言いなりになる人）を現わすことによって、軽蔑を招くことを望んでおられるのではなく、主はあなたが原則に対して岩のようにしっかりし、しかも健全な穩健さを持つことを望んでおられる。主のように恵みと真理に満ちていなさい。イエスは清廉潔白で汚れがなかった。しかも、主のご生涯には優しさ、柔和、温かさ、同情、愛が交じりあっていた。貧しい人も恐れなく主に近づいた。彼らは拒絶されるかと心配することはなかった。キリストがあられたすがたになるよう、どのクリスチャンも奮闘すべきである。品性の聖なることにおいて、人を引き付けることにおいて、主はわたしたちの模範である。……

わたしたちはみなクリスチャンであることが何を意味するかをキリストから学ぶべきである。わたしたちは主から堅固、正義、潔癖、気品を、無我の礼儀、親切な同情心と、どのように結合させるかを学ぼうではないか。このようにして品性は愛すべき魅力的なものになる。神聖の美はあざける者から力を奪う。……

心は天の流れを受けなければならない。そして、他人の心にあわれみと恵みの豊かな流れを出るようにしなさい。キリストのために魂を勝ち取ろうと思うすべての者は人を引きつける者でなければならない。（手紙 53, 1895 年）

研究 15

神の憐れみの最後の招き



「大いなる叫び –

大いなる理解に比例して」

大いなる叫び – 大いなる理解に比例して

神の憐れみの最後の警告は、「大いなる叫び」として伝えられることが預言されています。それでは、どのようにして第三天使のメッセージが「大いなる叫び」になるのでしょうか。神はご自分の民をこの働きに準備させるため、どこから始められるのでしょうか？

「ゆえに、このみ言葉を考えて、この幻を悟りなさい。…知り、かつ悟りなさい」(ダニエル 9:23, 25)。

終わりの時のことを教える幻を見せられたダニエルのもとへ、特別に御使が送られました。それは、その幻を「理解させる」ためでした。これは、ダニエルの祈りに答えたものです。

「すると彼はわたしに言った、「ダニエルよ、恐れるに及ばない。あなたが悟ろうと心をこめ、あなたの神の前に身を悩ましたその初めの日から、あなたの言葉は、すでに聞かれたので、わたしは、あなたの言葉のゆえにきたのです」(ダニエル 10:12)。

準備をさせるためのメッセージが与えられたとき、必ず、言われたことが「悟りなさい」ということです。準備は「悟ること」から始まるのです。

「(読者よ、悟れ)」(マタイ 24:15)。

「賢い者は悟るでしょう」(ダニエル 12:10)。

「しかし、思慮深い者たちは、自分たちのあかりと一緒に、入れものの中に油を用意していた」(マタイ 25:4)。

そして、悟ることは、キリストを知ることでした。

「知者はどこにいるか。…この世は、自分の知恵によって神を認めるに至らなかった。それは、神の知恵にならなっている。そこで神は、宣教の愚かさによって、信じる者を救うこととされたのである。…このキリストは、…召された者自身にとっては、ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神の力、神の知恵たるキリストなのである」(コリント第一 1:20-24)。

では、この悟りを得たとき、キリストを知ったとき、その結果は何でしょうか。

実にこれこそ、キリストの初臨のときに、「福音が…全世界に宣べ伝え」られた原動力でした。

「ペンテコステは彼らに天の啓示をさすけた。キリストと共にいたときには理解できなかった真理が、いま明らかにされた。彼らはこれまで知らなかった信仰と確信を与えられて、聖なるみことばについての教えを受け入れた。キリストが神のみ子であるということは、もはや彼らにとって信仰の問題ではなかった。主が、たとえ人間性を身につけておられても、本当に、メシヤであられることを彼らは知っていた。そして、神が彼らと共におられるのだという確信をもって、世に自分たちの経験を堂々と語った。

弟子たちはイエスのみ名を、確信をもって語ることができた。それは、イエスが彼らの友であり、兄であられたからではなかっただろうか。キリストとの親しい交わりに導かれて、彼らは主と共に天に備えられた場所に座った。キリストをあかしするとき、弟子たちの思想を包んだのは、すさまじく燃えることばであった。弟子たちの心には豊かな深い愛、どこまでも広い慈愛が積みすぎるほど積みこまれていたため、キリストのみ力をあかししに、地の果てまでも行かずにはおられなかった。弟子たちは、キリストが始められたみ働きを進展させたいという、切なる願いでいっぱいであった。彼らはまた、神の恩義の大きさと、彼らの仕事の責任の大きさを悟った。聖霊の賜物に力づけられて、彼らは、十字架の勝利を更にひろげたいという熱意に燃えて出て行った。聖霊は彼らを活気づけ、彼らを通して語った。

キリストの平和が彼らの顔から輝き出た。彼らの生涯を奉仕のために主にささげていたので、その顔には神にゆだねぎった表情があらわれていた」(患難から栄光へ上巻 41, 42)。

「大いなる叫び」は、「大いなる理解」の結果です。

「誤謬というちりとごみが尊い真理の宝石を埋めてしまったが、主の働き人たちはこれらの宝を見出すことができる。こうして幾千もの人々がそれらを喜びと畏敬をもって見るためである。神の御使たちは謙遜な働き人のかたわらにいて、恵みと神聖な啓発を与える。そして幾千もの人々がダビデと共に「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしき事を見させてください」と祈るように導かれる。

時代を越えて認められることも、注意を払われることもなかった数々の真理が、神の聖なるみ言葉の光を受けたページから輝き出る。全般的に真理を聞いたが、拒み、踏みにじつてきた諸教会は、ますます悪を行うが、「賢い者」、すなわち正直な者は理解するようになる。本は開かれ、神のみ言葉が神のみ旨を知りたいと願う人々の心に届く。第三天使に加わる天からの御使の大いなる叫びの時に、幾千もの人々が、長年のあいだ世界をとらえてきた麻痺状態から目覚める。

神のみ言葉が研究され、理解され、従われるとき、明るい光が世界に反射する。受けいれられ、実践される新しい真理が、わたしたちを強いきずなでイエスに結びつける。聖書、そして聖書だけが、わたしたちの信条、ただ一つの結合のきずなとなる。この聖なるみ言葉に頭を垂れるすべての者は、調和するようになる。わたしたち自身の見解や考えがわたしたちの努力を支配してはならない。人間は誤りを犯すが、神のみ言葉は無謬である。互いに論争する代わりに、主を高めなさい。わたしたちはすべての反対に対してわたしたちの主人なるお方がされたように、「こう書かれている」と言って対処しよう。聖書がわたしたちの信仰と規律の規則であると銘うたれた旗印を掲げよう」(ビュ・アンド・ヘルド 1885 年 12 月 15 日)。

「厳格な高潔さが、すべての聖徒によって大切にされるべきである。すべての思いは、あらわされた神のみ言葉に敬神的な注意を向けるべきである。光と恵みがこのように神に従う人々に与えられる。彼らは神の律法からくすしきことを見る。ペンテコステの時以来、注意を払われず、認められることのなかった数々の真理が、神のみ言葉からその天来の純潔さのうちに輝きでるのである。神を真に愛する人々に、聖霊は思いから消えてしまっていた数々の真理を明らかにし、またまったく新しい数々の真理をも明らかにして下さる。神の御子の肉を食べ、血を飲む人々は、ダニエル書と黙示録より聖霊によって靈感を受けた真理をもちだす。彼らは押し戻されることのない力をもって行動を開始する。子どもたちの唇は人

の思いから隠されてきた神秘を宣布するために開かれる。主は知者をはずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者をはずかしめるために、この世の弱い者を選ばれた。

聖書は、わたしたちの学校で、無信仰の間に挟みこまれるべきではない。聖書は教育の基礎また主題とされなければならない。わたしたちが生ける神のみことばについて、以前よりも、知っていることは事実である。しかし、学ぶべきことがまだ非常に多くある。

それは生ける神のみ言葉として用いられ、万事において最初で最後に最上とみなされるべきである。そのとき、真に霊的な成長が見られるようになる。生徒たちは健全な宗教的品性を発達させるようになる。なぜなら、神の御子の肉を食べ、血を飲むからである。しかし見守り、育むのでなければ、魂の健康は衰えてしまう。光の通路のうちにいなさい。聖書を研究しなさい。神に忠実に仕える者は、祝福される」(Eli・G・ホフ 1888 年原稿 1651)。

明るい光が世界を照らすのは、神のみ言葉が研究され、理解され、従われるときです。大いなる叫びをもたらす大いなる理解は、神の御子の肉を食べ、血を飲む成長に比例します。

多くの者がキリストのために殉教する

最後の警告 - 神の憐れみの最後の招き - を伝える人々は、御国の福音を伝えるために、そこに啓示された神の義を憎む者から迫害されます。それは、ダニエルの時から預言されていました。

「しかし東と北からの知らせが彼を驚かし、彼は多くの人を滅ぼし絶やそうと、大いなる怒りをもって出て行きます」(ダニエル 11:44)。

「二つの軍勢がはっきりと分かれて立つようになる。そして、この区別が非常に顕著なために、真理を確信させられた多くの人々が神の戒めを守る民の側に来るようになる。最終的な戦いに先だって、この壮大な働きが争闘においてなされるとき、多くの者が投獄され、多くの者が自分の命のために都市や町から逃げ、多くの者が真理を擁護してキリストのために殉教するようになる」(主は来られる 199)。

しかし、彼らが警告していたのは、この世の悩みに対してではありませんでした。彼らは、自分たちが悟り、伝えていた福音の通り、「御国」で主といつまで

も共に生きるのです。

それから終わりが来る – そして主と共にいつまでも

「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである」(マタイ 24:14)。

「そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。またそのとき、地のすべての民族は嘆き、そして力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見るとであろう。また、彼は大きなラッパの音と共に御使たちをつかわして、天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集めるであろう」(マタイ 24:30-31)。

「すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、それから生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう。だから、あなたがたは、これらの言葉をもって互に慰め合いなさい」(テサロニケ第一 4:16-18)。

神は今、その憐れみにより、ここに入りなさいと最後の招きをしておられます。どうぞ、この招きに答える一人ひとりとなりますように。アーメン (完)

怖を見せようとするかのように、大祭司は自分の衣を裂きました。彼は天へ向けて手を上げて言いました。

「彼は神を汚した。どうしてこれ以上、証人の必要があろう。あなたがたは今このけがし言を聞いた。あなたがたの意見はどうか」

裁判官たちは「彼は死に当たる者だ」と答えました(マタイ 26:65, 66)。

夜間に囚人を審問することはユダヤ人の法律に反していました。キリストの有罪は決定していましたが、昼間に正式な裁判がなければなりません。

イエスさまは番兵の詰所に連れて行かれ、そして兵士と暴徒からあざけりとののしりを受けられました。

夜明けにこのお方は再び裁判官の前に連れてこられ、最終的な有罪判決が宣告されました。

指導者たちと人々は悪魔的な怒りにとりつかれました。怒号する声は野獣の吠える声のようでした。彼らはイエスさまに突進し叫びました。「彼は有罪だ、死刑にしろ!」兵士がやめさせなかったら、このお方は八つ裂きにされてしまったことでしょう。ローマ当局が介入し、暴徒たちの暴力を武力で押さえました。

祭司、役人たち、そして暴徒たちは、一緒になって救い主を虐待しました。一枚の古い上着がこのお方の頭にかぶせられると、このお方の迫害者たちはこのお方の顔を打って、

「キリストよ、言いあててみよ、打ったのはだれか」と言いました(マタイ 26:68)。

上着が取りのけられると、あざけている者の一人が救い主のお顔につばを吐きかけました。

神の天使たちは自分たちの愛する司令官に対してなされた侮辱的な目つき、ことば、行為の一つももらさず忠実に記録しました。嘲笑し、そして静かな青ざめたキリストのお顔につばを吐きかけた卑劣な人たちは、いつの日か太陽よりも明るく輝く栄光のうちにそのみ顔を見るのです。

きゅうりのかんたん漬け物

◇材料

きゅうり	10 本
しょう油	1 カップ
粗糖	120g
ショウガ	1 片 (千切り)
たかの爪	2、3 本 (輪切り)

◇作り方

1. きゅうりを食べやすい大きさに切ります。
2. きゅうり以外の材料を混ぜて、煮立たせます。
3. 煮立ったら、きゅうりにかけます。
4. 冷めたら、また煮立たせてきゅうりにかけます。
5. 3 回目は、そのまま汁に漬けておきます。

古漬け風に仕上がります。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第40話

アンナス、カヤパ、そしてサンヒドリンの前で(Ⅲ)

「あなたの言うとおりである」

当時の習慣では、これは「はい」、つまり「それはあなたの言うとおりである」と答えることと同じでした。これは、肯定する答えとして、もっとも強力な答えかたでした。このお方が次のように付け加えられたとき、天来の光が救い主の青ざめた顔を照らしたように見えました。

「しかし、わたしは言うておく。あなたがたは、間もなく人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」(マタイ 26:64)。

この発言の中で、救い主はその時に起こっている場面の逆をお示しになりました。このお方はご自分が天地の最高裁判官として地位を占める時のことを指し示されました。そのとき、このお方はみ父のみ座につかれます。そして、このお方の判決に対して上訴はないのです。

このお方は、ご自分の聴衆の前に、その日の光景をお示しになりました。そのとき、このお方は騒々しい暴徒に囲まれてののしられる代わりに、力と大いなる栄光をもって天の雲に乗って来られるのです。そのとき、このお方は天使の大群に付き添われてきます。そのときには、このお方がご自分の敵たち、すなわち、ちょうど告発しているその群衆の中にいる人々に

判決を下されるのです。

イエスが、ご自身を神の子であり、また世界の裁き主であることを宣言する言葉を語られたとき、自分の恐



(47ページに続く)